

平成 29 年度 基盤研究(C)「インドの NGO がマイクロファイナンスの地域浸透と機能、
女性の経済力に与えた影響」

「マイクロファイナンスプログラムの家計所得への影響—インドマハラシュトラ
州オーランガーバードの事例研究」

木村正信(研究代表者) (金沢星稜大学)、ジョシ・アバイ、(金沢星稜大学)

西村めぐみ (共立女子大学)

マイクロファイナンスは貧困対策や女性の経済的地位向上にとって最も有効な戦略の一つと考えられている。しかし、マイクロファイナンスが貧困に与える効果については共通認識が存在しない。本研究ではインドのマハラシュトラ州オーランガーバードの NGO 組織、Institute for Integrated Rural Development (IIRD)が当地で主導している自助グループ (self-help group:SHG)を通じたマイクロファイナンスプログラムが与える所得への効果 (Average Treatment Effects) を推計する。推計の際には、回帰調整アプローチを使って共変量を制御する。そのアプローチを使って、以下の 2 点を明らかにする。

Question 1: 伝統的クエスチョン

貧困対策としてマイクロファイナンスはどのくらい有効か？

Question 2: 本研究独自の着眼点

自助グループ(SHG)の違いによってどのくらいマイクロファイナンスの所得への効果に差がでるのか？

さらに、SGH へのアンケート結果を集計し、どのような特徴を持つ自助グループ(SHG)に参加すれば所得を増やすことができるのかについても検討する。